

# 平成 16 年度京教学生科研費報告書

## テーマ：今求められる教師像

代表 社会文化 4 回 岡崎 圭

助言教員 高乗秀明

### 目的

- 1 . 教師塾を見学し、本気で教師になろうとしている人たちの刺激を受け、メンバーに伝える。
- 2 . 荒れた現場で 20 年間、教師をされていた原田先生の講演を学生に聞いてもらい、教師について考えてもらう。
- 3 . アンケートを用いて理想の教師像を学生に考えてもらう。

## 教師塾

### 1. まとめ

同じ学校の友達がインターネットを通じて私の悪口を言ったので友達をカッターナイフで殺害する。記憶にも新しいことでしょう。昨年、子供が、教師が、と言う社会問題が毎日のようにありました。そのようなことから今、世間では「教育があぶない。子供があぶない。日本があぶない。」と言われていています。

普通に物を考え真面目に日々を営む人であれば、何らかの事で思い当たる経験があるでしょう。まして、現実には子供と教育の現場で日常生活を共にする人であれば、より以上に厳しい経験があることでしょう。

学校教育、家庭教育、社員教育、教育と名の付くあらゆる実践の現場で問題が山積しています。これらを避けて通ることはできません。これからいったい、どうなるのでしょうか。どうすればよいのでしょうか？

例えば、政治家に働きかけて教育制度を改革する？それとも自分で学校を立てて理想を追求する？今の生活に嫌気が差し、海外に移住する？？？どれも一度は頭をかすめそうな考え・発想ですが、もう一つピンと来ません。政治家にならなくても、特別な力や地位を持たなくても、その気になれば自分の力でやれることはあると思います。

そこで教育の世界を見てみると「いい教師、ええ先生、素晴らしい指導者」と呼ばれる、輝く人たちが私たちの周りにもたくさんいます。それらの人たちは他の人たちと何が違うのでしょうか？

分析してみると確実に言えることがあります。それは教育に対する熱き思いを持ち、それを具現化する特殊な技術を持っているということです。その人なりの教育テクノロジー（技術化されている）が存在しているのです。

そういった現場で活躍されている教師から様々な指導ノウハウや交流しながら高めていくのが教師塾です。

## 教師塾の目的はプロ教師を目指すことです。

1. 現在の日本教育について正しく認識する。
2. 将来の「社会変化」と「教育」への影響について予想し、正しい方向へ導くための効果的な手法を開発し習得する。
3. 現在の社会環境の中で子供が引き起こす現象について正しく認識し、正しい方向へ導くための効果的な手法を開発し習得する。
4. 生徒を理解する前提として、教師が自分自身を研究し、自分自身を知る事を習得する。
5. 教育現場での「効果的な教育指導方法」を開発し、習得する。

以上、5つを習得したものが「**プロ教師**」と呼ばれる。

「効果的な教育指導方法」を3つの視点でとらえる。

1. 職能教育（指導テクニック 教え方・指導技術等）
2. 態度教育（しつけの仕方 集中のさせ方・挨拶・礼儀作法等）
3. 価値観教育（生徒のやる気を高める方法・自立型人間教育）

私たちが参加させてもらい教師の大切さ、魅力などを改めて感じることができました。

私たちが教師塾に参加したときは、大阪市内の難波、天王寺区、といった大都会の真ん中すぐ隣の町阿倍野区の塾校舎を利用していました。約150名の現役教師が北海道から沖縄まで全国各地から参加していました。そして教師を目指す大学生約15名、ユニクロ、ワタミといった経営者、社員も参加されていました。午後7時から始まった教師塾は朝方の5時頃まで続けられました。

現在、原田隆史先生は経営者の人材教育、天理大学の教職論を唱える一方、芸能界向上支援教育、スポーツメンタルトレーナー、教師塾を毎月一回、大阪、京都、東京の三箇所で開催しておられ大活躍しています。今回、講演会の実施や教師塾に参加させてもらうことができたのも本当に貴重な体験でした。京都教育大学ではこのような情熱ある教育があるこ

とを私たちが発信源となり広めていけるように精一杯がんばっていく決意です。

教師が変われば子供が変わる

子供が変われば日本が変わる

日本が変われば世界が変わる

教師は日本改革、世界改革しているといっても過言ではありません。景気回復よりも教師の教える側の改革が必要です。この上の言葉を胸にがんばっていきましょう。

俺がやらねば 誰がやる 今やらねばいつできる

保健体育学科 1回 橋口 徳治

## 2. 感想

午後7時から始まった教師塾は、休憩を30分程度はさみ結局午前2時まで続いた。合計6時間以上の授業はアツという間でした。はじめは原田隆史先生の迫力に圧倒されていましたが知らぬ間に講義にのめり込んでいました。

やはり教師塾で一番印象深かった事は、関西を中心に各地から集まって来られた塾生の講義に対する姿勢です。塾生といってもほとんどが現役教師です。少しでも原田隆史先生の教育方法を自分の物にしたいという気持ちが塾生の目の輝きから伝わってきました。三分間作文をはじめプレゼンなど様々な課題が出されましたが誰一人手を抜くことなく、何かに取りつかれたように真剣にやっていました。私はオブザーバー（観察者）という立場で教師塾に参加しました。オブザーバーの中には府議会議員の方もみられました。

この教師塾を通して私は言葉では言い表せられないほどの刺激と感動を受けました。これから教師を目指すという立場にいる私に情熱を注いでくれました。

将来実際に教育現場に足を踏み入れたとき、原田隆史先生がしてこられた教育の何分の一しか出来ないかもしれませんが、少しでも参考にして生徒やその親と向き合っていけたらいいと思います。

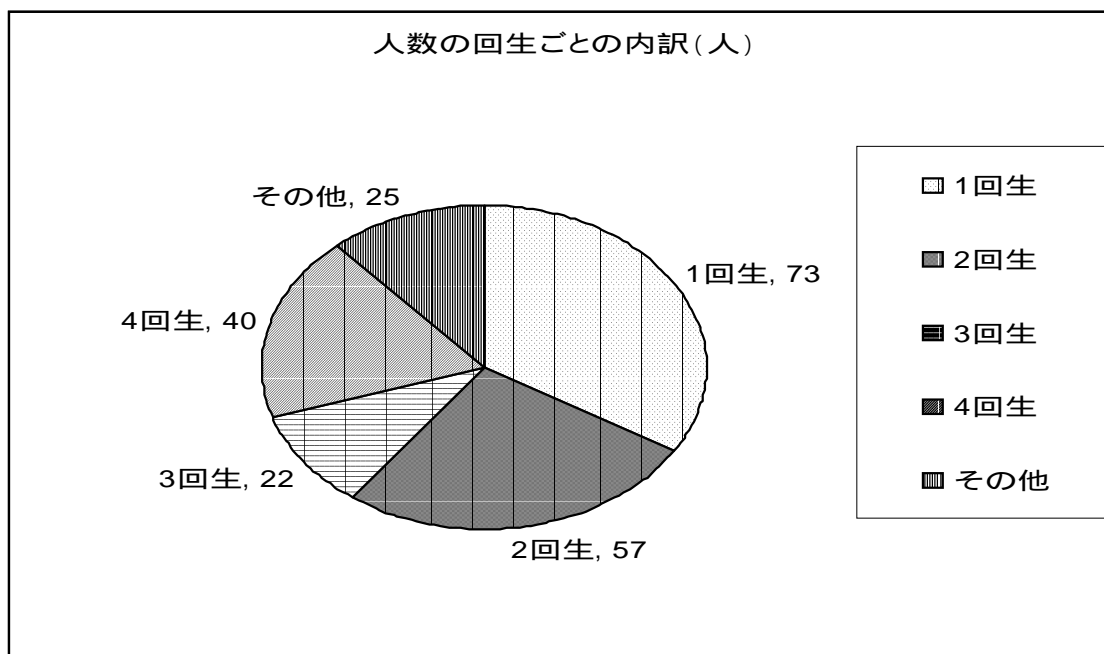
また機会があれば行きたいと思う今日このごろであります。

保健体育学科 1回生 千葉 哲

## 原田先生講演会（10月27日）

### 1. 受講者

講演会には、217人の学生が参加し、京都教育大学生のほかに、奈良教育大学、大阪教育大学、関西外国語大学、立命館大学、関西大学、大谷大学、大阪国際大学、佛教大学、関西学院大学、関西国際大学、京都大学、京都工芸繊維大学、滋賀大学、摂南大学、太成学院大学、天理大学、同志社女子大学、奈良大学、日本体育大学、龍谷大学といった計21大学の学生がこの講演を受講しにきました。回生ごとの受講者の人数は下のグラフのとおり。



### 2. 講演会の雰囲気

講演会が始まる前はがやがやとうるさかったのですが、いざ講演が始まると徐々に話声などは少なくなっていっていきました。講演会中は私も含め、みんな話に夢中だったと思います。なんというか、話がとても上手で、真面目な話の合間に面白い話があったりして、途中で笑い声が聞こえていたのをよく覚えています。講演は約2時間ありましたが、あっという間に終わってしまいました。講演会が終わった後は、みんな声をそろえて「来て本当に良かった。」や「途中で帰ろうと思っていたけど、最後までついつい話を聞いてしまった。」などという感想がほとんどでした。また機会があるなら聞かせてもらいたいという意見が多く、とても好評でした。

勝田 先紀

### 3. 内容

原田先生による講演会の内容は、自己紹介として、まず原田先生のビデオが紹介されました。その後、若者の意識、求められる教師像、教師になる極意について話をされました。特に、これからの教育指導原則について話をされているときは、実際に先生が経験された時の話がたくさんありました。そして 未来が求める人間像、生きる力の育成、育成原則、心作り指導など、受講者が今後どのようなことを実践すればよいのという話を、先生が現在でも教師塾や企業などを相手に講義をされているという内容を踏まえて話されました。講義の最後にはディスカッションの時間として、受講者と先生の質疑応答の時間も設けられ、何人かの受講者が質問をしました。

### 4. ディスカッション

原田先生の講演会の最後にディスカッションが行われ、原田先生に対していくつもの質問が寄せられました。会場に来ていたみんなが講演に集中していた結果だと思います。その内容はまとめると次のようなものでした。

原田先生は教師になるまでに様々な経験をしろとおっしゃっていましたがどのような経験をすればいいですか？

何事も準備が大切。教師なる前から必要だと思うことを項目にあげ、今の状況の中で出来ることをやるのが大事。

海外に行けとおっしゃっていましたがどういった国がいいのですか？

特に日本に無い「しんどさ」を抱えている国がいい。私は東西ドイツや、チェコで貧富の差を見て来た。

中学の体育の授業で脱線してしまった子たちへの対応はどうすればよいですか？

頑張り子だけに目を向けるのはよくない。子どもたちは教師の姿をよく見ている。明確な理念・志を持って指導にあたるのが大切。指導力がない若いころは持続が重要。

日本一を目指した子が日本一になれなかった時、生徒に対しどうしたらいいですか？

結果はだめでも日本一を目指した立派な中学生。人格目標は達成し、生徒は育っているので、OKです。

私はつい3日坊主で終わってしまうのですが、子どもたちが3日坊主になってしまってもいいのですか？

3日坊主が4日坊主になることを心掛けなさい。

『ちょっと変わったら大きく変わった』

少し行動、態度を変えると心は大きく変わるということ。この積み重ねが大事。

指導者がいないクラブは指導者がいない中でどういった意識、方向付けをしていったらいいのですか？

私は中学で陸上を教えていた時も可能な範囲で他の部のサポートをしてきた。しかし、最終的には指導者がいなくても自立して出来る子どもを育てていきたいし、それこそが私が講演でも言っていた自立型人間だと考えています。

山田 剛史

## 5、講演会の感想

原田先生の講義は、印象に残った話がとてもたくさんあって、本当に参考になりました。「心のコップを上向きに」「すさみの除去」「主体変容」「率先垂範」「自立型人間」「目標達成シート」・・・など、私の日常生活において、たくさんのキーワードとなってしまいました。

この講義を聴いているうちにわかったことがありました。それは原田先生の、教師を育てて、一人でも多くの生徒を自立型人間に育てるという気持ちです。今回の講義を聴いて、将来自立型人間を育てられるよう、また、今の自分自身も自立型人間となれるように励んでいきたいと思いました。

このような機会を与您いただき、本当に感謝しています。ありがとうございました。

倉本 寛司

# アンケート

## 1．序論

現在、学校教育の荒廃は大きな問題になっています。いじめや、校内暴力、不登校、学級崩壊など、多くの学校が抱える問題です。最近では、教員の指導力と、適格性の欠如が問題視されています。そのような中、私たちは大学生生活で何をしておくべきか。今求められる教師とはどのような教師であるかを考えました。その手段として教育現場で働いてこられた原田先生を招き講演会を開きました。そして、そのときていただいた学生に、今求められる教師像についてのアンケートを配りました。その結果をここにまとめました。

## 2．方法

アンケート

## 3．対象

学生（他大学を含む）

## 4．実施日時

10月27日

## 5．質問内容

教師になってやりたいこと、教師になるために努力していること、教師に必要な要素、学校現場での競争の必要性、理想の教師像、教師を目指す人に身につけてほしいこと。

## 6．回収方法

その場で回収

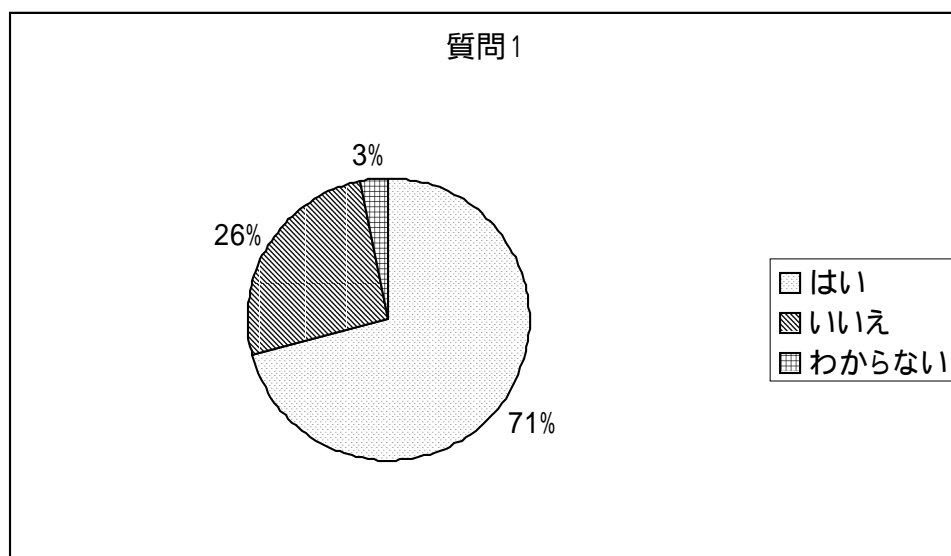


## 7. 結果

### 質問1

Q:「あなたは教員志望ですか？」

「はい」が110人、「いいえ」が40人、「その他(未記入)」が5人



### 質問2

Q:「教師になって1番やりたいことは何ですか？」

「クラブの顧問になる」25人

「授業で専門を教える」15人

「子どもと一緒にいろいろな体験をする」15人

「立派な生徒を育てたい」15人

「担任になりたい」8人

「楽しい学校生活を作る」5人

「夢を与えたい」4人

「生徒に尊敬されたい」4人

「生徒を感動させたい」2人

「生徒を教え、教わりたい」2人

「指導方針を子どもと考え、自分流の学校をつくりたい」2人

「子どもと何かをやり遂げる」

「社会のことを教えたい」

「自分のレベルアップをしたい」

「自分の力を試したい」

「運動会をしたい」

「本を読ませたい」

「教師を作りたい」

質問3

Q：「教師になるために今努力していることありますか？」

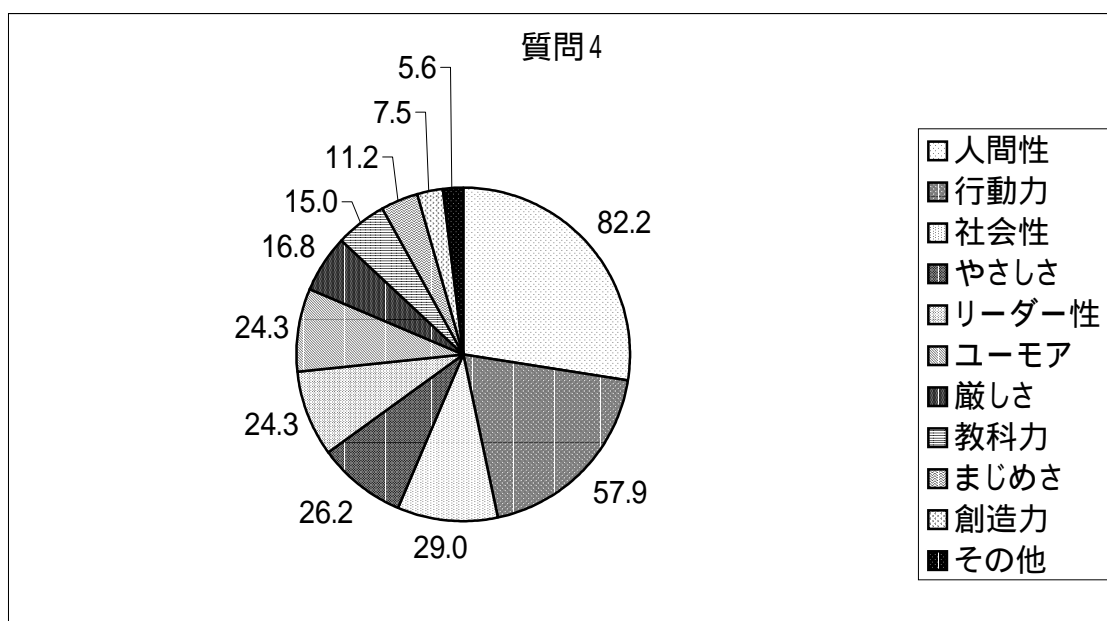
- 「特に無い」24人
- 「専門教科を勉強する」19人
- 「読書をする」12人
- 「部活をがんばる」11人
- 「いろんなことに本気でチャレンジする」10人
- 「自分を磨く」8人
- 「単位をとる」8人
- 「たくさんの人と話をする」7人
- 「ボランティア」5人
- 「教員採用試験の勉強」5人
- 「何にでも一生懸命やる」4人
- 「教育関連の講義をうける」4人
- 「興味関心を増やす」3人
- 「子どもとコミュニケーションをとる」3人
- 「きちっとした態度を示す」3人
- 「家庭教師や塾のバイト」3人
- 「時事問題に興味を持ち新聞を読む」3人
- 「先生の考え方をきく」2人
- 「自分の意見をしっかり言う」2人
- 「苦手なことをがんばる」2人
- 「外部コーチ」2人
- 「語学勉強」2人
- 「大学を楽しむ」
- 「自分の生活で善と思えることを進んでやる」
- 「教育関連のテレビを見る」
- 「教師像の模索」
- 「日記を書く」
- 「ギャグセンスをみがく」
- 「アドラー心理学について学ぶ」
- 「発声練習」
- 「何かを継続する」
- 「自分に厳しくする」
- 「素直になる努力」
- 「時間を守る」

- 「何かに自信をもつ」
- 「1日1日を必死に生きる」
- 「1人暮らし」

**質問 4**

Q : 「あなたが教師に特に必要だと思う要素を選んでください」

- 「人間性」 88 人
- 「行動力」 62 人
- 「社会性」 31 人
- 「やさしさ」 28 人
- 「リーダー性」 26 人
- 「ユーモア」 26 人
- 「厳しさ」 18 人
- 「教科力」 16 人
- 「まじめさ」 12 人
- 「創造力」 8 人
- 「その他」 6 人 (内訳 = 「あつさ」 2 人、「観察力」 2 人、「心の広さ」「思いやり」)



数値はパーセンテージ。3つを選ぶという形式なので、例えば全体の 82,2%の人が「人間性」を必要と考えている、ということである。

質問5

Q：「最近では運動会などで競争を避ける傾向があります。学校教育で競争する場は必要だと思いますか？」

必要 99人

理由

「人それぞれができることを発表する場、自分を知る場であるから」13人

「さらに伸ばすため」13人

「勝ち負け以外にも得るものはある」9人

「社会では、当然競争はある」8人

「勝つ喜び、負ける悔しさを感じるため」5人

「目標を立て、そこへ向かって自分の競争をさせることは必要だ」

「人間を強くする、心を育てる」4人

「仲間と喜びを分かち合うため」3人

「正しさを知るため」2人

「プライド、自信を身に付ける」2人

「他人に勝とうとする気持ちは必要だから」

「結果を受け止める心を育てたい」

「フォローをしっかりやれば、ある程度必要」7人

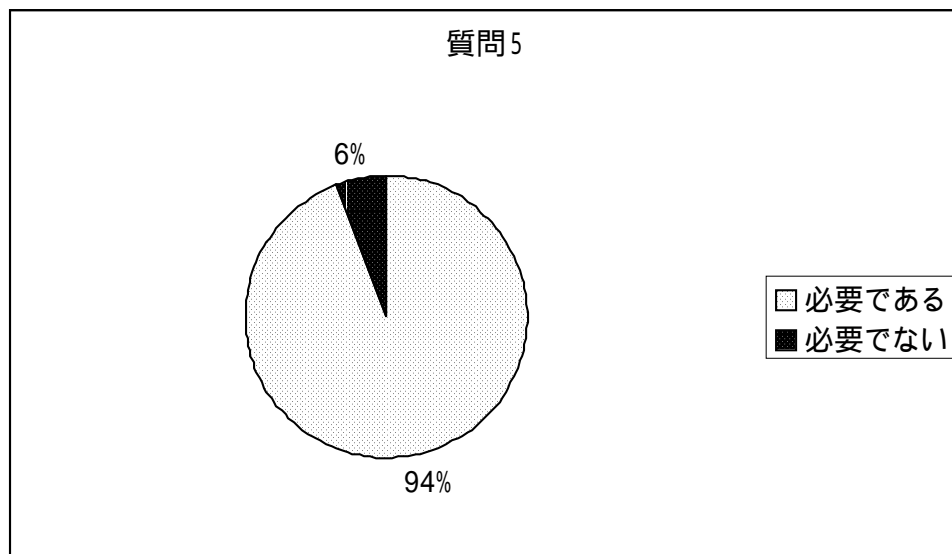
必要でない 6人

理由

「学校にはさまざまな人がいるので」

「劣等感を抱く生徒のことを考えれば極力避けたい」

「学力別クラスはいらない」



質問 6

Q : 「あなたが考える理想の教師像とはどのような人ですか？」

「生徒、あるいは周りの教師や保護所とも、しっかりとした信頼関係で結ばれていること」

17 人

「どんな生徒にでもあきらめず、接することができる」15 人

「本気の、熱い先生」13 人

「生徒の個性に気づき、より良い方向に導くことができる」12 人

「卒業後も心に残るような、生徒に影響を与えられる先生」11 人

「生徒のことを一番に思う先生」9 人

「行動力のある先生」8 人

「思いやりがあり、子どもに慕われる先生」7 人

「自信を持って、堂々としていて、輝いている先生」5 人

「子どもと喜怒哀楽を共にできる先生」5 人

「どんな状況においても信念を貫ける先生」4 人

「専門の勉強をしている先生」4 人

「きちっと叱れる先生」4 人

「生徒の見本となれる、魅力ある先生」4 人

「感情に任せて怒らない」3 人

「原田先生」3 人

「おもしろい先生」2 人

「子どもから尊敬される先生」2 人

「指導力のある先生」2 人

「生徒の参加できる授業のできる先生」2 人

「本気で子どもが好きな先生」2 人

「厳しく優しい先生」2 人

「平等な先生」

「忍耐力の強い先生」

「『うっとうしいけどいい先生やな』と言われる先生」

「学校が楽しいと思わせる先生」

「生徒に対して尊敬の念を持てる先生」

「たくさんのことを考えられる先生」

「自立した生徒にしてあげられる先生」

「感謝の気持ちを持てる先生」

「自然体でいられる先生」

「わからない」8 人

質問7

Q:「今の教師に必要なと思われる要素を選んでください」

「人間性」43人

「行動力」32人

「社会性」18人

「やさしさ」11人

「厳しさ」10人

「ユーモア」9人

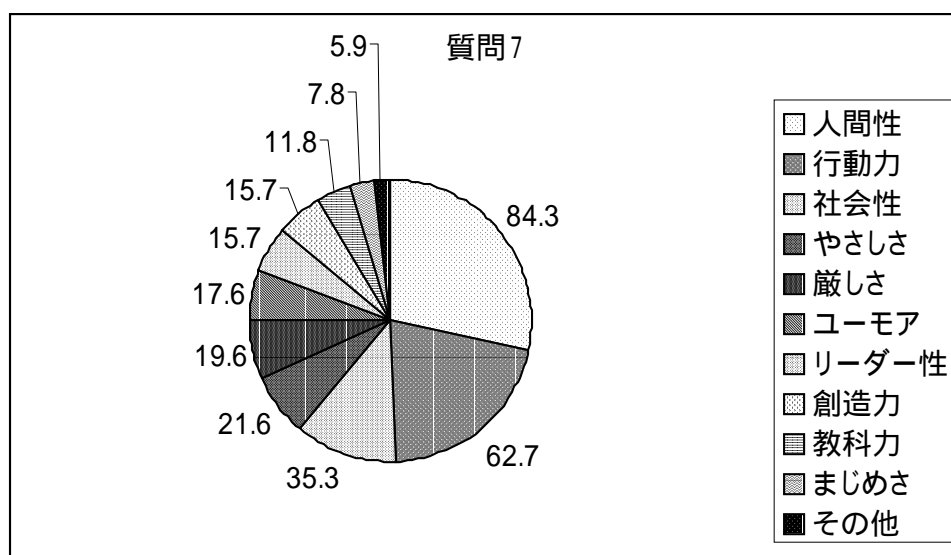
「リーダー性」8人

「創造力」8人

「教科力」6人

「まじめさ」4人

「その他」3人(内訳 = 「未来を見る力」「素直さ」「説得力」)



質問 8

Q : 「教師を目指す大学生にやっておいてほしいこと、身につけてほしいことはなんですか？」

「いろんな経験をつむ」 9 人

「本気で教師を目指してほしい」 8 人

「目標を作り自分のやりたい事ができる人」 2 人

「礼儀正しく、常に正しい行動を取ること」 2 人

「人間性を高め、心の広さを持ってほしい」 2 人

「行動力」 2 人

「たくさん悩んでほしい」 2 人

「誰にも負けないものを持つ」

「指導を受ける生徒が納得するような人に」

「他人の考えていることを理解しようとする姿勢を常に持つようにする」

「エリートであること」

「話を聞く力をつける」

「書く力をつける」

「人に考えさせる術を身につける」

「専門の勉強」

「生活を指導できる力」

「教師になった後必要となる力を先取りして学んでほしい」

「歴史を勉強してほしい」

「一度、企業などで社会経験を つんでから教師になっても良いと思う」

「夢をしっかり持つ」

「読書をする」

「人脈作り」

「部活」

「趣味をもつ」

「子ども一人一人に指導できる力」

「専門以外の教科にも興味を深めてほしい」

「継続する力」

「生徒をいじめない先生になってほしい」

「筋の通った先生」

「メンタルトレーニングをしてほしい」

「気孔をしてほしい」

「理想の教師像を持ってほしい」

## 8 . 考察

### 質問 2

Q : 「教師になって 1 番やりたいことは何ですか？」

クラブの楽しさを教えることが一番多かった。質問 3 での、教師になるためにやっていることとして、クラブ活動をやっているという回答と結びつく。クラブの顧問を通して、生徒と接し、自分の技術を教えて生きたいと考えていることが分かる。

2, 3, 4 番に多かった回答は、ほぼ同じくらい多く、「授業で専門を教える」「子どもと一緒にいろいろな体験をする」「立派な生徒を育てたい」であった。子どもと一緒にいろいろな体験をしたいという体験の中には、クラブや授業が含まれるのだろうが、授業を教えることより、クラブで顧問をしたいという人が多かったことに驚いた。

立派な生徒を育てたいという中には、「自立した生徒」「感謝できる生徒」「人間性を持った生徒」「世の中に一矢報いるような生徒」と、それぞれ異なった理想を持っていることが分かった。その他は、回答にバラつきがあった。

どれも積極的な意見が多く、教師への意欲が感じられた。

### 質問 3

Q : 「教師になるために今努力していることありますか？」

一番多かったのが、何もしていないという回答であった。これは残念であるが、教師を目指す約 5 人に 1 人の計算になる。中には、何かしなければという思いはあるが実行できていないという回答もあった。

2 番目は専門教科を勉強することであった。ピアノや習字、パソコンなども挙げられた。3, 4, 5 番目はほぼ同数で、具体的には読書、部活で、広い意味ではいろいろな経験を積極的にやることが挙げられた。これは、次に多かった自分を磨くことや、たくさんの人と話すことにつながるものと考えられる。単位をとるということが今努力していること、という現実的な意見も多かった。

この質問に対してもさまざまな意見が上げられたが、やはり、今努力していることを何も書くことができない人の多さが、ひとつの発見である。



#### 質問 4

Q：「あなたが教師に特に必要だと思う要素を選んでください」

1番多かったのが人間性、2番目に行動力、3番目に社会性。そして、やさしさ、リーダー性、ユーモアとつづく。私たちはまじめさや教科力がもう少し多くなると予想していたが、意外に少なかった。その分、ユーモアが予想外に多くなっていた。人間性はダントツの1番であったが、人間性の概念の中には「やさしさ」などは含まれるし、広い意味の人間性をおいたことは失敗であった。

ここから導かれる理想像は、人間性豊かで、行動力があり、人とのコミュニケーション力がある教師といったものだろう。その他のところは、あつさ(情熱)、観察力、心の広さ、思いやり、が挙げられた。しっかり自分の理想像を持っていることがここから分かる。

#### 質問 5

Q：「最近では運動会などで競争を避ける傾向があります。学校教育で競争する場合は必要だと思いますか？」

メンバーが陸上競技部に所属していることもあり、最近の学校内での競争について興味を持ち、質問5を加えた。結果は、必要が99で必要でないが6、無回答が5であった。

理由として、「人それぞれその人の能力を向上させることは大切」「勝ち負け以外に得るものがある」「社会に出たら競争の世界は当然であるから」といったものが多かった。

必要としながらも、過剰にならないようにという条件つきでの回答も多く見られた。

必要でないと答えた人は、必要であると答えた人が、「負けても、はい上がってくる力が大切」というのに対して、負けて、はい上がってこれない人のことを心配したような回答を見ることができた。

圧倒的に学校の現場にも競争は必要であるという意見が多いことが分かったが、過剰になる危険性を防ぐことも大切だと思った。

#### 質問 6

Q：「あなたが考える理想の教師像とはどのような人ですか？」

この質問がこのアンケートの柱である。難しい質問に割によく書いてくれていた。

1番が「生徒との信頼関係を持つこと」であった。この中には、周りの教師、保護者の信頼関係も含めた。

2番目に、「どんな教師にあきらめず接することができる」、という回答が出てきた。一人一人と向き合えるひたむきな教師像がうかがえる。

3番目が「本気の先生」「熱い先生」であった。これは原田先生の話聞いた後ということからも、多くの回答を得た。

質問4の教師に必要な要素で上位に挙げた「行動力」も、この理想の教師像で多く挙げられていた。

たくさんの理想像があるため、まとめるのは難しいが、一人一人の生徒のことを本気で見てくれる教師というものが多くの人に共通の理想であると考え。より具体的な像を描いている人も多く確認できた。

#### 質問 7

Q：「今の教師に必要なと思われる要素を選んでください」

結果は、質問4とほぼ一致していた。1番が人間性、2番目が行動力、3番目が社会性であった。教師を目指さない人が望んでいる教師像を、教師を目指している人はうまく捉えているということが分かった。違いがあるとすれば、教師を目指さない人は、教師を目指す人より厳しさを多く挙げていたことであった。つまり、ユーモアよりも厳しさを望んでいるのである。その他では、未来を見る力、素直さ、説得力が挙げられた。

これは、原田先生のおっしゃった今の社会には父性が欠けているということを示していると感じた。

#### 質問 8

Q : 「教師を目指す大学生にやっておいてほしいこと、身につけてほしいことはなんですか？」

- ・ 教師を目指す大学生にやっておいてほしいこと

一番多かったのが、いろんな経験を積むことであった。学校以外での経験を積んでほしいというものの中にはあった。具体的には、海外に行ってほしい、一度企業で働いて社会研究、部活、趣味というものが挙がった。その過程で、たくさんすることに悩む、誰にも負けないものをつくる、人脈をつくり、専門外の勉強をする、継続する力をつけ、目標を達成する力というものを身につけてほしいという意見であった。

- ・ 教師を目指す人にこういった考えを持ってほしい

1 番多かったのは本気で教師を目指してほしい、というものであった。中途半端に教師になるなという意見もあった。たくさん出てきたものから考えると、教師を目指さない人は、教師になろうとしている人に、本気で教師を目指し、さまざまな経験を積むことを望んでいる。

学校は閉鎖的になりがちなので、大学のうちにいろいろな世界のことに関心を持ち、行動して行ってほしいという意味であると考えます。

## 9 . まとめ

「今求められる教師像」をテーマとしたが、アンケートの結果を見る限り、各々の理想の教師像はバラバラ、十人十色であったというのが第1印象である。

教師を目指している人とそうでない人に分けて回答をうかがったが、違いとして表れたのは、教師を目指している人はユーモアを重視するのに対し、そうでない人は厳しさを重視するというような差が表れたところであった。

また、教師を目指している人から、今何をやっていいのかがわからないという意見が出ていたが、教職に限らず、さまざまな経験を本気で積むことが大切という意見が全体からは出ていたので、それを解決の糸口として、積極的に教師への道を歩んでほしい。

アンケートをまとめていて、とても大変だったが、それほど回答者が必死に記入していることを感じる事ができた。

## 10 . 反省点

今回のアンケートで、質問5の競争のところの質問が他と比較してあまり意味を持たなかったので、これからは、質問内容も全体の見通しを持った内容にするように気をつけたい。

また、質問4、質問7の「人間性」の概念が広すぎたので、もう少し細かく分けたほうが良かったと思う。たとえば、「やさしさ」と「厳しさ」などは人間性に入ってもおかしくないなので、そういった項目を増やして、「人間性」という項目は消す、などの改善である。

## e project全体を通して

- ・ メンバーで話し合う機会をあまりもてなかった。
- ・ 原田先生の講演会は大成功であった。他大学に、京都教育大学をアピールできた。大阪教育大学、龍谷大学などへ陸上の試合でピラを2000枚以上配ったり、ホームページに書き込んだりした。人を集めることの難しさを感じた。
- ・ あの講演を聞いて、6人ほどの学生が、教師を本気で目指すと感想文に書いていた。他にも、たくさんの影響を与えることができた。メンバーのみんなにも理想の教師像とは何かを考えさせるきっかけになった。

今後も学生が自ら、e-pro を活用し、教育に携わる研究を続けてくれればと考えます。この project に協力していただいたメンバー高乗先生、陸上部、そして原田先生に本当に感謝しています。ありがとうございました。